

巻頭言

アピールできるものがないんです

比較文化学科長 井上 和人

「自己アピールできるものがない。そう思っている学生が多いですね」。就職支援センターSさんのお話です。「だって、何かの大会で優勝したことはないし、特別な資格も持ってないし」とお悩みのひと、いいものを教えましょう。皆さん全員が取り組んでいる「あれ」です。

困ったときの温故知新。江戸時代は元禄のころのこと。13歳の息子が古筆の軸をリサイクルして簾すだれをこしらえ、これを売ってお金を儲けた。あまりのうれしさに、この子の親が寺子屋の師匠に自慢しました。「先生、うちのせがれ、見込みがあるでしょう」。師匠曰く、「あまり感心しませんなあ。第一、それぐらいの子だったら、他にいくらでもおる。それより、一番見込みがあるのは、明け暮れ読み書きに一生懸命な子じゃ」（西鶴『世間胸算用』巻五の二）。

わかりましたか？ そう、「あれ」とは大学の勉強のことです。「江戸時代の話なんか、古すぎじゃね」。お疑いはもつとも。でも、「新卒学生の採用活動で、大学での成績や取得単位などを記録した履修履歴を活用する企業が増えている」（「成績、履修歴データ登録…企業向け分析、採用に活用」『毎日新聞』2017年8月2日）という動きも。さあ、秋学期。「学生時代に頑張ったことは何ですか」ときかれたら、「大学の勉強です！」と答えられる、そんな学びをしてみませんか。

